

## 極域におけるデータ可視化Webサービスのアクセス解析

Access analysis of data visualization web service for polar region

\*照井 健志<sup>1</sup>、杉村 剛<sup>1</sup>、矢吹 裕伯<sup>1</sup>\*Takeshi Terui<sup>1</sup>, Takeshi Sugimura<sup>1</sup>, Hironori Yabuki<sup>1</sup>

## 1. 国立極地研究所

1. National Institute of Polar Research

北極域データアーカイブ(Arctic Data archive System)は、北極域で得られた様々なデータセットを一元的に収集・公開するために構築された研究基盤です。GRENE北極気候変動事業が開始されてから5年間、ADSでは以下のようなWebサービスの開発を行った。1)極域研究に関わる他分野のデータの相互流通を実現するKIWA。2)衛星データおよびモデル計算結果のグリッドデータをブラウザ上で可視化・解析するVISION。3)地球観測衛星データを利用した極域監視ウェブサイトVISHOP。これらのWebサービスは世界中からアクセスされている。本研究では、これらのサービスが開始されてからGRENE終了までの期間を対象にアクセス解析を実施した。本発表では、これらのサービスについて、どれぐらいのアクセスがあり、閲覧者はどのようなデータに興味を持っていたのか、解析結果を紹介したい。

キーワード：ウェブサービス、アクセス解析、可視化、データ

Keywords: Web Service, Access Analysis, Visualization, Data